



賃上げの現実とこれから

千葉県鍍金工業組合 瀧澤 一泰
(三幸鍍金株式会社)

皆様こんにちは。千葉県鍍金組合代表理事の瀧澤です。

今は、2月の第2週です。第51回衆議院議員総選挙の結果が出たばかりです。与党は党結成以来最多議席を獲得し、小選挙区の大半で当選、比例区の候補者も全員当選、さらに他党へ議席を譲るという圧勝となりました。この結果が私たちめっき業界、とりわけ零細企業にとって良いものなのかどうか、慎重に見極める必要があります。

近年、働き方改革やインボイス制度の導入、電子化の推進、毎年のように見直される育児・介護制度など、法制度やルールの変更が続き、現場で働く従業員の負担は増加しています。加えて、毎年5%の賃上げが求められ、最低賃金も大幅に上昇しています。賃金を上げなければ人材確保が難しく、採用できても定着しにくいという現実があり、物価高騰の中でどのように賃上げを実現していくかは大きな課題です。

2026年1月には下請法が改正され、「中小受託取引適正化法（取適法）」として施行され

ました。内容は零細企業に配慮したものであり、心強い面もあります。しかし実際には、大手企業がコスト削減のため海外企業にも見積もりを依頼する動きがあり、価格転嫁が思うように進まない状況も見られます。海外流出を防ぐため、希望通りの価格改定が難しいという現実もあります。

賃上げは企業にとって避けて通れない重要課題ですが、経営との両立は容易ではありません。新年の賀詞交歓会では多くの企業トップが「改革」という言葉を強調していました。私たちも国の政策に振り回されるのではなく、全国鍍金工業組合連合会や各組合と連携し、既存の仕組みと新しい制度をうまく融合させながら、時代に即した運営を進めるべき時に来ています。

大きな変化の中にあっても、千葉の組合としてできることから着実に取り組み、少しずつでも前向きな改革を進めてまいります。皆様におかれましても、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。